広　報　資　料

令和４年１月１４日
京都市文化市民局
（担当：文化芸術都市推進室
文化芸術企画課２２２-３１１９）

令和３年度京都市芸術新人賞及び京都市芸術振興賞の被表彰者の決定について

京都市では，本市出身者又は本市内において活発な文化芸術活動を行い，全国的にも評価を高め，将来を嘱望される方々に「京都市芸術新人賞」を，また，同じく京都市内で活動を行い，新人の育成又は芸術に係る活動環境の向上に多大の功労があった方々に「京都市芸術振興賞」を授与し，その功績を称えています。

この度，令和３年度の被表彰者を決定しましたので，お知らせします。

記

１　**被表彰者**（敬称略・五十音順）（別紙１参照）

⑴　京都市芸術新人賞（10 件）

石橋（いしばし）　志郎（しろう）　（日本画）
小嶋（こじま）　晶（あき）　（現代美術）
金剛（こんごう）　龍謹（たつのり）　（能楽）
斉藤（さいとう）　綾子（あやこ）　（舞踊）
谷川（たにがわ）　美音（みね）　（漆芸）
中岡（なかおか）　真珠美（ますみ）　（洋画）
中村（なかむら）　裕太（ゆうた）　（現代美術）
林（はやし）　美音子（みねこ）　（邦楽（柳川三味線））
福田（ふくた）　彩乃（あやの）　（洋楽（サクソフォン））
藤野（ふじの）　可織（かおり）　（文学（小説））

⑵　京都市芸術振興賞（9 件）

朧谷（おぼろや）　寿（ひさし）　（学術（歴史））
白井（しらい）　進（すすむ）　（書）
椿（つばき）　昇（のぼる）　（現代美術）
並木（なみき）　誠士（せいし）　（学術（美術史・美術館学））
福井（ふくい）　尚子（ひさこ）　（洋楽（ピアノ））
本城（ほんじょう）　ゆり　（舞踊）
三好（みよし）　芫山（げんざん）　（邦楽（尺八））
村田（むらた）　純一（じゅんいち）　（芸術振興（文学））
一般財団法人ニッシャ印刷文化振興財団（いんさつぶんかしんこうざいだん）　（芸術振興（印刷文化））

裏面に続く

２　表彰式

⑴ 日時

令和４年１月２１日（金）　午前１０時３０分～

⑵ 場所

京都市京セラ美術館　本館　光の広間

⑶ 出席者（予定）

被表彰者及び同伴者

来賓	田中	明秀	京都市会議長
	吉田	孝雄	京都市会副議長
	国本	友利	京都市会文化環境委員会委員長
	潮江	宏三	京都市芸術新人賞・京都市芸術振興賞選考委員会委員代表
本市	門川	大作	市長
	吉田	良比呂	副市長
	山中	博昭	文化芸術政策監

⑷ 次第

開会

来賓紹介

表彰状の授与

京都市長挨拶

来賓祝辞（京都市会議長）

祝辞・功績紹介（京都市芸術新人賞・京都市芸術振興賞選考委員会委員代表）

被表彰者代表謝辞

閉会

３　添付資料

別紙１　京都市芸術新人賞及び京都市芸術振興賞受賞者功績調書

別紙２　京都市芸術新人賞・京都市芸術振興賞選考委員会委員名簿

別紙３　京都市芸術新人賞及び京都市芸術振興賞受賞者一覧（過去３年分）

４　その他

被表彰者への取材は，表彰式終了後に行うことが可能です。

※ただし，当日の進行状況等により予定を変更する場合があります。

（参考）京都市芸術新人賞及び京都市芸術振興賞について

本制度は，昭和５０年度に創設し，令和２年度までに京都市芸術新人賞として２４２件の方々を，京都市芸術振興賞として１２８件の方々を表彰しています。

（別紙1）京都市芸術新人賞

石橋　志郎　いしばし しろう　（40歳）

日本画／京都府向日市

【功績】

平成19年，京都市立芸術大学（京都芸大）大学院修士課程美術研究科絵画専攻を修了。

日本画における顔料の「粒子」を手掛かりに，「空白／余白」，「地／図」，「境界」をテーマとして空間に放たれる光の輝きを追求し，自分にしか日本画で表現できない「白」にこだわり，確かな技術力で今そこにある光と風の揺らぎを写しとったかのようにみずみずしい世界を創り出している。

平成17年に公益財団法人佐藤国際文化育英財団奨学生に採用。その後，関西圏のほか，愛知，東京などで個展・グループ展に多数参加。平成25年には「トーキョーワンダーウォール賞」，令和3年には「京都日本画新展2021大賞」を受賞するなど，今後益々の活躍が期待される日本画家である。

＜略歴＞

・大阪府に生まれる(昭和56年)
・公益財団法人佐藤国際文化育英財団奨学生採用（平成17～19年）
・京都市立芸術大学大学院修士課程美術研究科絵画専攻修了(平成19年)

＜主な受賞歴等＞

・「続『京都 日本画新展』」優秀賞（平成25年）
・「トーキョーワンダーウォール公募」トーキョーワンダーウォール賞（平成25年）
・「京都日本画新展2021」大賞（令和3年）

＜現在＞

・大阪芸術大学短期大学部デザイン美術学科非常勤講師
・日本画教室「たしなむ日本画」講師

＜主な活動等＞

・【個展】「世界をくぐりぬけて、椅子に座る」(立体ギャラリー射手座／京都／平成23年)
・【個展】「空中の光、地上へ積もる雪」(カホ・ギャラリー／京都／平成25年)
・【個展】「はじまりの光に触れる」(カホ・ギャラリー／京都／平成27年)
・【個展】「drip」(ガレージ名古屋gareco／愛知／平成30年)
・【個展】「空間、光」(ギャラリー恵風／京都／平成30年)
・【個展】「灰色と光」(カホ・ギャラリー／京都／令和元年)
・【個展】「絵画と輝度」(ギャラリーあしやシューレ／兵庫／令和元年)
・企画展・グループ展「ベリーマキコ・石橋志郎　ふたりの視点　Their point of view from KYOTO」（今治市大三島美術館 ／愛媛／令和3年）
・【個展】「灰色と光」(＋1art／大阪／令和3年)

＜京都市との関わり＞

・企画展・グループ展「尖展」（京都市美術館／平成24～30年）
・企画展・グループ展「藝文京展EX つなぐ」（京都芸術センター／平成31年）
・企画展・グループ展「京都日本画新展in二条城-100人の画家 嵯峨野線を旅して-」（二条城／京都／平成31年）
・企画展・グループ展「京都日本画新展2021」（美術館「えき」KYOTO／令和3年）

＜代表作等＞

「Scratch」（令和元年）

「Tone」（令和3年）

年齢は受賞日（令和4年1月21日）現在

（別紙1）京都市芸術新人賞

小嶋　晶　こじま　あき　（年齢非公表）

現代美術／大阪府枚方市

【功績】
看護師として約10年間働いた後，美術の道に進み，大阪芸術大学通信教育部デザイン学科を卒業，京都市立芸術大学（京都芸大）大学院美術研究科絵画専攻油画を修了。
卒業制作で発表した「情報としての生、または愛」が京都市立芸術大学作品展において大学院市長賞を受賞し，作品が同大学のパブリックコレクションとして収蔵される。
手術室や集中治療室での勤務を通じ，人間の生死と絶えず関わってきた中で生まれた「アニマ（ラテン語で生，魂の意）」についての興味や関心を創作の根源的意欲として，映像や立体物，パフォーマンスなど多様なメディアを用いた作品を制作しており，その独自の感性と手法による哲学的な作品は高く評価されている。

＜略歴＞
・大阪府に生まれる
・関西医科大学附属看護専門学校卒業(平成14年)
・大阪芸術大学通信教育部デザイン学科卒業(平成28年)
・京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了(平成31年)

＜主な受賞歴等＞
・「京都市立芸術大学作品展」大学院市長賞(平成31年)
・「アートアワードトーキョー丸の内2019」グランプリ(令和元年)
・「Kyoto Art for Tomorrow 2020-京都府新鋭選抜展-」最優秀賞(令和2年)
・「岡本太郎現代芸術賞展」入選(令和2年)
・咲くやこの花賞美術部門(令和3年)

＜主な活動等＞
・京都市立芸術大学作品展（京都市立芸術大学内／平成31年）
・阪急アートフェア Neo SEED(阪急うめだ本店／大阪／令和元年)
・ART OSAKA 2019(HOTEL GRANVIA OSAKA／令和元年)
・アートアワードトーキョー丸の内2019(行幸地下ギャラリー／東京／令和元年)
・Kyoto Art for Tomorrow 2020-京都府新鋭選抜展-(京都文化博物館／令和2年)
・岡本太郎現代芸術賞展（川崎市岡本太郎美術館／神奈川／ 令和2年）
・transmit program 2020(京都市立芸大ギャラリー@KCUA／令和2年)
・ARTISTS’ FAIR KYOTO 2021(京都文化博物館／令和3年)

＜京都市との関わり＞
・artKYOTO2020関連企画展「a linkage」(engawa KYOTO／令和2年，京都市が実行委員会に参画)
・「ニューミューテーション＃4小嶋晶・小林椋」(京都芸術センター／令和3年)

＜代表作等＞

「情報としての生，または愛 Vol.2」（令和元年）

「自分になる」（令和元~2年）

年齢は受賞日（令和4年1月21日）現在

（別紙1）京都市芸術新人賞

金剛　龍謹　こんごう　たつのり　（33歳）

能楽／京都市左京区

【功績】

昭和63年，金剛流二十六世宗家金剛永謹氏の長男として京都に生まれる。幼少から，父・金剛永謹氏，祖父・二世金剛巌氏に師事し，平成5年に5歳で仕舞「猩々」にて初舞台。以後「石橋」「鷺」「翁」「乱」「道成寺」「望月」「安宅」など数々の大曲を披く。自身の演能会「龍門之会」をはじめとして，京都を中心に全国の数多くの公演に出演。平成29年には，日本バチカン国交樹立75周年記念「バチカン勧進能」で，祖父・二世金剛巌氏が当時の法王・故ヨハネ・パウロ2世の前で舞った「羽衣」を演じるなど，海外公演も積極的に参加している。

自らの芸の研鑽に努めながら，京都市立芸術大学（京都芸大）等での講義や部活動の指導，各地の学校での巡回公演など学生への普及活動にも熱心に取り組んでおり，能楽の更なる発展に尽力している。

＜略歴＞

・京都市に生まれる（昭和63年）
・父・二十六世宗家金剛永謹氏，祖父・二十五世宗家金剛巌氏に師事
・平成5年に仕舞「猩々」にて初舞台を踏み，平成10年に能「岩船」にて初シテを勤める
・同志社大学文学部卒業（平成22年）
・自身の芸の研鑽と若い世代への能楽普及のため，「龍門之会」を発会（平成24年）
　同年2月4日の初会から，毎年公演を開催
・京都市立芸術大学の能楽部を創部し指導に当たる（平成24年）

＜現在＞

・能楽金剛流若宗家
・京都市立芸術大学非常勤講師（平成29年～）
・公益財団法人金剛能楽堂財団理事（平成28年～）

＜主な活動等＞

・宝生和英×金剛龍謹 合同演能会「小鍛冶　白頭」シテ（金剛能楽堂,宝生能楽堂／京都,東京／平成26年），「妻戸」シテ（石川県立能楽堂／平成27年），「蝉丸」シテ（金剛能楽堂／京都／平成29年）
・「樂―茶碗の中の宇宙」展開催記念ロシア公演にて「羽衣　盤渉」シテ（プーシキン美術館／ロシア／平成27年）
・国立能楽堂企画公演「復興と文化特別編　老女の祈り」にて復曲能「名取ノ老女」ツレ（国立能楽堂／東京／平成28年），「東日本大震災復興祈念事業」にて再演(名取市文化会館／宮城／令和3年)
・日本バチカン国交樹立75周年記念企画「バチカン勧進能」にて「羽衣　盤渉」シテ(バチカンカンチェレリア宮殿／平成29年)
・内閣官房オリンピック・パラリンピック推進事業「夕暮能」にて「羽衣　盤渉」「小鍛冶　白頭」シテ（伏見稲荷大社能舞台／京都／平成29年）
・作家・石牟礼道子氏原作，染色家・志村ふくみ氏，志村洋子氏衣装監修による新作能「沖宮」シテ（水前寺成趣園能楽殿／熊本，金剛能楽堂／京都，国立能楽堂／東京／平成30年，金剛能楽堂／京都／令和3年）
・茶道裏千家 月間茶道誌『淡交』にて「茶人の嗜み 能を学ぶ」を1年間連載（平成30年）
・能楽協会主催　能楽公演2020～新型コロナウイルス終息祈願～「道成寺　古式」シテ（国立能楽堂／東京／令和2年）
・（公財）石川県音楽文化振興事業団主催　OEK×京響«和洋の響»オーケストラとのコラボレーション公演（石川県立音楽堂／令和3年）
・能楽協会主催　東京2020オリンピック・パラリンピック能楽祭「道成寺」シテ（国立能楽堂／東京／令和3年）

＜京都市との関わり＞

・京都市立芸術大学芸術資源研究センター開設記念事業　ワークショップ「 舞と謡の過去・現在・未来　－記譜法と身体伝承－ 」（京都市立芸術大学講堂／平成26年）
・京都・パリ友情盟約60周年記念プレ事業・アンスティチュ・フランセ関西　創立90周年記念新作能「面影」 -ポール・クローデル「女と影」による-（金剛能楽堂／京都／平成29年）
・京都市自治百二十周年記念式典　舞囃子「田村」（ロームシアター京都／平成30年）

＜代表作等＞

第五回龍門之会「安宅」（平成28年）

新作能「沖宮」（令和3年）

年齢は受賞日（令和4年1月21日）現在

（別紙1）京都市芸術新人賞

斉藤　綾子　さいとう　あやこ　（31歳）

舞踊／大阪府豊中市

【功績】

ダンサーである両親の影響を受け，幼い頃から踊りに親しむ。3歳からバレエ，ジャズダンスを始め，10歳から父・サイトウマコト氏に師事し，コンテンポラリーダンスを学ぶ。

平成25年に大阪芸術大学舞台芸術学科舞踊コース卒業。在学中に望月則彦氏振付作品「カルメン」でカルメン役を踊る。平成28年からは，益田さち氏とのダンスユニット「…1[アマリイチ]」での活動を始める。

現在は「斉藤DANCE工房」を拠点とし，ダンサー，振付助手として数多くの作品に参加する。京都でも多くの舞台に出演。作家として自身が制作した作品も発表するなど，精力的に活動を続けており，次世代を担う舞踊家として今後益々の活躍が期待されている。

＜略歴＞

・大阪府に生まれる（平成2年）
・バレエ，ジャズダンスを始め，母・浜生千都子氏の指導を受ける（平成5年）
・田中俊行氏からクラシックバレエを学ぶ（平成9年）
・父・サイトウマコト氏に師事しコンテンポラリーダンスを学ぶ（平成12年）
・大阪芸術大学舞台芸術学科舞踊コース卒業（平成25年）
・益田さち氏とのダンスユニット「…1[アマリイチ]」での活動を始める（平成28年）

＜主な受賞歴等＞

・「Sensational Ballet Dance Competition」1位（宝塚ベガ・ホール／兵庫／令和2年）

＜現在＞

・「斉藤DANCE工房」講師

＜主な活動等＞

・KAC Performing Arts Program 2017/ Contemporary Dance 国際共同製作 多田淳之介 演出「RE/PLAY Dance Edit」出演（京都芸術センター／平成29年）
・CIRCULATION KYOTO きたまり作品「あたご」出演（京都市右京ふれあい文化会館／令和元年）
・ユ・ジヨン「LOST PERFORMANCE」出演（京都芸術センター／令和元年）
・きたまり/KIKIKIKIKIKI「マーラー 交響曲第2番ハ短調「復活」」出演（THEATRE E9 KYOTO／令和元年）
・akakilike「明日で全部が終わるから今までにした最悪なことの話をしようランド」出演（THEATRE E9 KYOTO／令和元年）
・木ノ下歌舞伎 舞踊公演「娘道成寺」振付助手（京都芸術劇場 春秋座／令和元年）
・「書くとか歩くとか」企画・演出・振付・出演・衣裳・制作（人間座スタジオ／京都／令和2年）
・ゴーダ企画「SYNTHESE DRAG meets CONTEMPORARY」出演（京都芸術センター／令和3年）
・Tomoko Dance Art Company「いのちーアタエラレシモノー」出演（京都府民ホール ALTI／令和3年）

＜京都市との関わり＞

・京都芸術センターの共同プログラム「Co-programカテゴリーD「KACセレクション」」にて，「…１[アマリイチ]」の新作公演「punk・tuate」発表（京都芸術センター／平成30年）
・ロームシアター京都開館5周年記念事業 京都市交響楽団×石橋正義 パフォーマティブコンサート「火の鳥」出演（ロームシアター京都／令和3年）
・「ニューミューテーション＃4　小嶋晶・小林椋」映像出演（京都芸術センター／令和3年）

＜代表作等＞

「Les Sylphides」（平成30年）

「書くとか歩くとか」（令和2年）

年齢は受賞日（令和4年1月21日）現在

（別紙1）京都市芸術新人賞

谷川　美音　たにがわ　みね　（33歳）

漆芸／京都府京田辺市

【功績】

京都市立芸術大学（京都芸大）大学院美術研究科修士課程修了，同大学作品展で平舘賞，同窓会賞，大学院市長賞を受賞。漆で線や立体を造形する独創的な作品を制作。自然や身近な環境から得られる印象をドローイングという手段で視覚化し，そこに漆を重ねることで，印象の記憶を定着させていく。静的で永続的な側面を持つ漆という素材と，動的で刹那的なドローイングという手段を組み合わせ，現在の中にある時間の積層へと意識を促し，今という時間とどのように対峙するかを問いかける。

成田国際空港のJALファーストクラスラウンジ等にコレクションの実績があるほか，京都を拠点に数々の個展を開催し，海外のアートフェアにも出展するなど，精力的な活動を続けている。

＜略歴＞

- 京都府に生まれる（昭和63年）
- 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程漆工修了（平成25年）
- 京都市立芸術大学漆工実技非常勤講師（平成28～30年，令和2年）

＜主な受賞歴等＞

- 「京都市立芸術大学作品展」平館賞（平成21年），同窓会賞（平成22年），大学院市長賞（平成24年）
- 「大黒屋現代アート公募展」入選（平成29年）

＜主な活動等＞

- 「京都府新鋭選抜展2017」（京都文化博物館／平成29年）
- 【個展】「形をなぞる」（FINCH ARTS／京都／平成29年）
- 【個展】「谷川美音-漆-」（祇をん小西／京都／平成29年）
- 「今、注目すべきアーティスト20名によるグループ展」（ホテルアンテルーム京都／平成30年）
- 【個展】「Brush」（The Gallery by SOIL／香港／平成30年）
- 【個展】「景色の縁」（Lights Gallery／愛知／平成30年）
- 「URUSHI-ISM Ⅱ Lacca Giapponese Contemporanea」（ESH Gallery／イタリア／平成30年）
- 「-Esprit JAPON- carte blanche a Martine Rey」（Musée Hébert／フランス／平成30年）
- コミッションワーク（成田国際空港 JALファーストクラスラウンジ／千葉／平成31年）
- 「Collect 2019」（Saatchi Gallery／イギリス／平成31年）
- 「Small Impact」（KUNST ARZT／京都 ／令和元年）
- コミッションワーク（ザ・リッツ・カールトン・南京／中国／令和元年）
- 【個展】「彼は月を撫でてみる」（FINCH ARTS／京都／令和2年）
- コミッションワーク（羽田空港 JALファーストクラスラウンジ／東京／令和2年）
- 「Collect 2020」（Somerset House／イギリス／令和2年）
- 「じねんのいのち by FINCH ARTS」（CADAN 有楽町／東京／令和3年）
- コミッションワーク（アゴーラ 京都烏丸／令和3年）
- 【個展】「谷川美音-漆-」（祇をん小西／京都／令和3年）
- 「New Wave」（The Gallery by SOIL／香港／令和3年）
- 「CAPTURE」（RIKKA gallery／東京／令和3年）
- コミッションワーク（シャングリ・ラ 前灘 上海／中国／令和3年）

＜京都市との関わり＞

- ザ・ホテル青龍 京都清水への作品納品（京都まちじゅうアートプロジェクト「まちじゅうアーティスト事業」）（令和3年）

＜代表作等＞

コミッションワーク／羽田空港JAL ファーストクラスラウンジ（令和2年）

「blurred edge_g_y＆m」（令和3年）

年齢は受賞日（令和4年1月21日）現在

（別紙1）京都市芸術新人賞

中岡　真珠美　なかおか　ますみ　（43歳）

洋画／大阪府吹田市

【功績】

京都市立芸術大学(京都芸大)大学院美術研究科絵画専攻(油画)を修了。風景を写真に収め，その風景の一部分を抽象化，さらに鮮やかな色彩を改めて配置し，背景の白ささえも光沢のある樹脂塗料に置き換えることで，ただの余白ではない不思議な質感をまとった，爽やかな美しい風景画を描く。これまでとは違った手法にも取り組み，具体的なモチーフを絵から読み取ることができる作品や，静物画や室内画を描くなど，表現の幅を広げている。個展の開催や，海外を含めたグループ展にも多数参加するなど，精力的に活動を続けている。

京都市立芸術大学作品展大学院市長賞を受賞するなど，早くから評価され，平成29年には京都府文化賞奨励賞を受賞。今後，更なる飛躍が期待されている。

＜略歴＞

- 京都府に生まれる(昭和53年)
- 京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻(油画)修了(平成16年)
- 第19回ホルベイン・スカラシップ奨学生に選出(平成16年)
- チェンマイ大学特任講師としてタイに滞在(平成27~28年)

＜主な受賞歴等＞

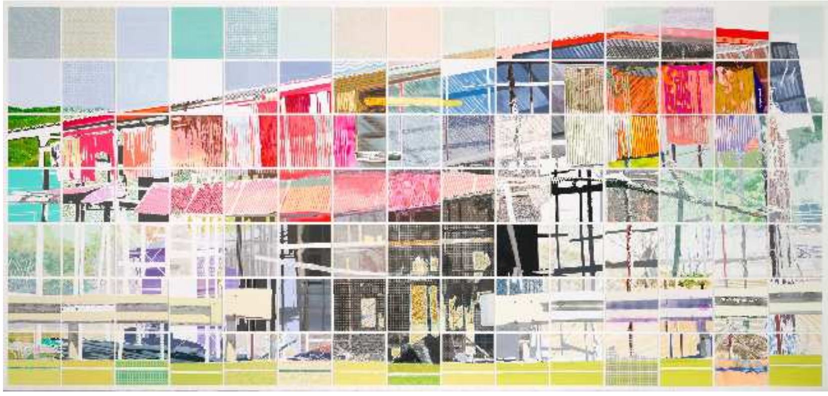
- 「京都市立芸術大学作品展」大学院市長賞(平成16年)
- 「倉敷現代アートビエンナーレ」準グランプリ（平成17年）
- 「VOCA 展 2007 現代美術の展望－新しい平面の作家たち」佳作賞（平成19年）
- 京都府文化賞奨励賞（平成29年）

＜主な活動等＞

- 【個展】(Oギャラリーeyes／大阪／平成16～令和3年まで毎年)
- 「神戸アートアニュアル2004　トナリノマド」(神戸アートビレッジセンター／兵庫／平成16年)
- 「UI Wang International Plan Carsd Art 2004」(lakeside Pegun／韓国／平成16年)
- 「倉敷現代アート・ビエンナーレ」(倉敷市立美術館／岡山／平成17年)
- 「TAMA VIVANT 2005 美術・そのひろがる輪郭」(多摩美術大学／東京,みなとみらい駅コンコース／神奈川／平成17年)
- 「VOCA展2007－新しい平面の作家たち」(上野の森美術館／東京／平成17年)
- 「International Exchange Project “Japanese Young Artists TRIAL in Painting”」Modern Culture Center／韓国／平成17年)
- 【個展】「project N」(東京オペラシティアートギャラリー／平成17年)
- 【個展】「white view」(INAXギャラリー2／東京／平成20年)
- 【個展】「中岡真珠美展」(第一生命ギャラリー／東京／平成20年)
- 【個展】(アートフロントギャラリー／東京／平成21～25，27，29年)
- 「新鋭各賞受賞作家展－New Contemporaries」(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA／平成24年)
- 「震災から20年　震災　記憶　美術」(BBプラザ美術館／兵庫／平成26年)
- 【個展】「Invisible Distance」(Gallery Seescape／タイ／平成28年)
- 「Semi, Art Gallery in CMU」(チェンマイ大学／タイ／平成28年)
- 「Ngon Lam」（フエ大学／ベトナム／平成28年）
- 「Expozite Internationala de Arta Contemporana」(サトゥマーレ美術館／ルーマニア／平成29年)

＜代表作等＞

「Floating Feeling」（平成24年）



「Passing Note -廃納屋-」（平成27年）

年齢は受賞日（令和4年1月21日）現在

（別紙1）京都市芸術新人賞

中村　裕太　なかむら　ゆうた　（38歳）

現代美術／京都市下京区

【功績】

平成23年に京都精華大学芸術研究科博士後期課程を修了。平成29年から同大学芸術学部造形学科の特任講師を務め，現在まで京都を拠点に活動を続ける。

博士課程では、近代日本における白色タイルの受容史を研究し，「民俗と建築にまつわる工芸」という視点から陶磁器，タイルなどの学術研究と作品制作に取り組む。アカデミックで精緻なリサーチを基盤とした考察から作品を制作するスタイルが高く評価され，国内外の主要なグループ展に招聘されるなど，近年最も注目されている若手作家の一人である。それぞれの土地の素材や技術によって作られ使われてきた工芸品に着目し，陶片などの一次資料から自身で収集する。史実や文化の在り様を客観的な視点で落とし込み，再構成された作品は，独自の世界観を作り出している。

＜略歴＞

・東京都に生まれる（昭和58年）
・京都精華大学大学院芸術研究科博士後期課程修了，博士(芸術)取得（平成23年）
・文化庁新進芸術家海外研修員（短期）としてオーストラリア（シドニー）に派遣（平成28年）

＜現在＞

・京都精華大学芸術学部造形学科特任講師（平成29年~）

＜主な活動等＞

・【個展】「NOW NO SWIMS ON MON」（neutron／京都／平成19年）
・【個展】「SHOW／ROOM」（shin-bi／京都／平成20年）
・【個展】「豆腐と油揚げ」（neutron／京都／平成21年）
・「六本木クロッシング2013：アウト・オブ・ダウト―来たるべき風景のために」（森美術館／東京／平成25年）
・「タイルとホコラとツーリズム」（ギャラリーPARC／京都／平成26年，以降毎年，日本各地で開催）
・「アジア・パシフィック・トリエンナーレ」（クイーンズランド州立美術館，ギャラリー・オブ・モダン・アート／オーストラリア／平成27年）
・「シドニー・ビエンナーレ」（キャリッジワークス／オーストラリア／平成28年）
・「あいちトリエンナーレ2016」（愛知県美術館／平成28年）
・【個展】「タイル植物園　熱帯植物の観察術」（名古屋市東山植物園／愛知／平成29年）
・「アウト・オブ・民藝」（誠光社／京都／平成30年，以降毎年，日本各地で開催）
・「MAMリサーチ007：走泥社―現代陶芸のはじまりに」（森美術館／東京／令和元年）
・「表現の生態系｜世界との関係をつくりかえる」（アーツ前橋／群馬／令和元年）
・【個展】「ツボ_ノ_ナカ_ハ_ナンダロナ？」（京都国立近代美術館／令和2年）
・【個展】「中村裕太｜丸い柿、干した柿」（高松市美術館／香川／令和3年）

【著書】

・『アウト・オブ・民藝』（共著／誠光社／令和元年）

＜京都市との関わり＞

・「東アジア文化都市2017京都　アジア回廊「現代美術展」」（元離宮二条城,京都芸術センター／平成29年）
・「タイルとホコラとツーリズム　Season8 七条河原じゃり風流」（谷本研＋中村裕太 として）（HAPS「文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業」モデル事業，崇仁地域／令和2~3年）

＜代表作等＞

「群馬工芸の生態系」（令和元年）

「タイルとホコラとツーリズム　Season8 七条河原じゃり風流」（令和2~3年）

年齢は受賞日（令和4年1月21日）現在

（別紙1）京都市芸術新人賞

林　美音子　はやし　みねこ　（40歳）

邦楽（柳川三味線）／京都市北区

【功績】

母・林美恵子師，津田道子師，沢井忠夫師，五世 茂山千作師，本條秀太郎師に師事。10代の頃より国内外にて多数の演奏経験を積む。古典の伝承はもとより，自身の公演において初演委嘱作品や現代舞踊との共演を披露するなど，地歌，中でも柳川三味線を次世代へ繋ぐ新たな可能性を探求しながら，活動の幅を広げている。学校教育における積極的な活動も評され，多数の受賞歴を持つ。平成28年度京都市芸術文化特別奨励者。

また，近年は，三味線の原材料（象牙，猫皮，紅木等）が入手困難という状況の下，中でも消耗品である「皮」の今後を案じて，胴皮部分を和紙で代替する研究を行い，演奏会において和紙皮の柳川三味線を実演するなど，その成果を挙げつつある。

＜略歴＞
- 京都市に生まれる（昭和56年）
- 林美恵子師・津田道子師・沢井忠夫師・五世 茂山千作師・本條秀太郎師に師事
- 奈良教育大学音楽文化専修卒業（平成16年）

＜現在＞
- 京都當道会所属
- 生田流箏曲・柳川三味線演奏者育成
- 京都教育大学付属桃山小学校和楽器講師
- 京都教育大学非常勤講師
- 奈良教育大学非常勤講師
- 京都女子大学非常勤講師
- 京都教育大学による文部科学省認定「我が国の伝統や文化に関する教育の充実に係る調査研究」推進委員

＜主な受賞歴等＞
- 日本箏曲連盟「全国箏曲コンクール」一般の部優秀賞（平成11年）
- 日本伝統文化振興財団「邦楽技能者オーディション」合格（平成23年）
- 「くまもと全国邦楽コンクール」優秀賞（平成23年）
- 伝統文化ポーラ賞奨励賞（平成24年）

＜主な活動等＞
- 「中日交流音楽会」（中国蘇州市／平成16年）
- CD「柳川三味線／林美音子」リリース（公益財団法人日本伝統文化振興財団／平成23年）
- 「林美音子リサイタル」（京都府立府民ホール ALTI／平成23,24,26年）（紀尾井小ホール／東京／平成28年）
- ポーランド日本文化センター主催・在ポーランド日本大使館後援「第15回日本文化フェスティバル」（ガラス文化財センター，クラシチン城，バラヌフサンドミエルスキ城／ポーランド／平成27年）
- 奈良日伊協会ら主催による「イタリア・音楽の架け橋 日伊国交150年・トスティ生誕170年・没100年記念 奈良日伊協会・親善ツアー2016」（トスティ劇場，サン・ロッコ教会／イタリア／平成28年）
- 「東大寺本坊 音楽の調べ～最古の三味線、柳川三味線～」（東大寺／奈良／平成28年）
- DVD「子どもの創造性を育む伝統・文化教育～箏を活用した授業づくりのために～」（文部科学省研究指定「我が国の伝統・文化教育の充実に係る調査研究」）推進委員として制作・出演（平成28年）
- 「京の音，和のイノベーション―音響心理学で迫る和紙柳川三味線の可能性―」（京都市立芸術大学（京都芸大）／令和3年）

＜京都市との関わり＞
- 「伝統産業文化研修講座」講師（平成27年）
- 京都市芸術文化特別奨励者（平成28年）
- 伝統芸能文化創生プロジェクト「三味線三昧」（京都芸術センター／平成28年）
- 「東アジア文化都市2017 韓国閉会式」（韓国大邱市／平成29年）
- 伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム「柳川三味線のための胴皮新素材開発」採択（平成30年）
- 「柳川三味線 和紙胴「響」お披露目会」（京都芸術センター／令和3年）

＜代表作等＞

植梶寿子リサイタル「時空の響艶」
（京都府立府民ホールALTI／令和3年）

「柳川三味線 和紙胴「響」お披露目会」
（京都芸術センター／令和3年）

年齢は受賞日（令和4年1月21日）現在

（別紙1）京都市芸術新人賞

福田　彩乃　ふくた　あやの　（26歳）

洋楽（サクソフォン）／京都市西京区

【功績】

京都市立芸術大学（京都芸大）音楽学部管・打楽専攻，同大学院音楽研究科修士課程器楽専攻をそれぞれ首席で卒業・修了。これまでにサクソフォンを尾家幸枝氏，服部吉之氏，國末貞仁氏，須川展也氏，本堂誠氏に師事。平成28年に公益財団法人青山財団奨学生に選出されたほか，ナゴヤサクソフォンコンクールアンサンブル部門第1位，U25若手演奏家部門第2位など，数々のコンクールにおいて受賞を重ねている。

グループでの活動も積極的に行っており，同級生4人で結成した「NOK Saxophone Quartet」では，令和2年にファーストアルバム「KNOCK!!」をリリース。プロのサクソフォン奏者によるチーム「SAX PARTY!」(音楽監督:須川展也)にも所属し，関西を中心に演奏会を開催している。

＜略歴＞

・三重県津市に生まれる（平成7年）
・名古屋・大阪・京都で活動する同級生４人で「NOK Saxophone Quartet」結成（平成27年）
・公益財団法人青山財団奨学生に選出（平成28年）
・プロ奏者によるチーム「SAX PARTY!」メンバー加入（平成28年）
・公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業派遣アーティスト（平成30～令和元年）
・公益財団法人東松山まちづくり公社アウトリーチ事業「アーティスト in school」派遣アーティスト（令和元年）
・京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程器楽専攻修了（令和2年）

＜現在＞

・京都市立芸術大学大学院音楽研究科博士（後期）課程器楽研究領域2年在学中

＜主な受賞歴等＞

・KOBE国際音楽コンクールC部門木管楽器部門奨励賞（平成30年）
・ナゴヤサクソフォンコンクールアンサンブル部門第1位，U25若手演奏家部門第2位（平成30年）
・京都市立芸術大学音楽学部打楽器専攻卒業時　京都市長賞，京都音楽協会賞（平成30年）
・京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程器楽専攻修了時　大学院市長賞（令和2年）

＜主な活動等＞

・「京都ゆかりの若き演奏家による協奏曲演奏会」にてソリストを務める(京都市立京都堀川音楽高校ホール/平成27年)
・「京都市立芸術大学音楽学部・大学院音楽研究科 第155回定期演奏会」（下野竜也指揮）にソリストとして出演（平成29年）
・「読売新人演奏会」（東京文化会館／平成30年）
・「ヤマハ管楽器新人演奏会」（あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール／大阪／平成30年）
・「祇園祭ミュージアムコンサート」（京都文化博物館別館ホール／令和元年）
・「福田彩乃サクソフォンリサイタル」（青山音楽記念館 バロックザール／京都 ／令和元~3年）
・NOK Saxophone Quartetでファーストアルバム「KNOCK!!」リリース（令和2年）

＜代表作等＞

「福田彩乃
サクソフォンリサイタル」
（令和元年）

NOK Saxophone Quartet
ファーストアルバム「KNOCK!!」
（令和2年）

年齢は受賞日（令和4年1月21日）現在

（別紙1）京都市芸術新人賞

藤野　可織　ふじの　かおり　（41歳）

文学（小説）／京都市中京区

©佐山順丸

【功績】

平成16年に同志社大学大学院文学研究科美学芸術学専攻修士課程修了。幼い頃から本に親しみ，大学院在学中に作家を志すようになる。出版社でアルバイトをしながら小説を執筆し，平成18年に「いやしい鳥」で文學界新人賞を受賞し作家デビューを果たすと，野間文芸新人賞や川端康成文学賞の候補に名を連ね，平成25年に「爪と目」で芥川龍之介賞を受賞し，純文学作家としての地位を確立する。

誰もが持っている狡さや狂気を簡潔な文章で描き出し，時制や人称で独自の世界観を作り出す作品は，純文学の枠に収まりきらない作風で高い評価を受ける。近年では，アーティストとのコラボレーション作品も手がけるなど，精力的に活動するとともに，京都文学賞アンバサダーや京都文学レジデンシーアドバイザーを務めるなど，活動の幅を広げている。

＜略歴＞

- 京都市に生まれる(昭和55年)
- 同志社大学大学院文学研究科美学芸術学専攻修士課程修了(平成16年)
- アイオワ大学のインターナショナル・ライティング・プログラムに招聘(平成29年)

＜現在＞

- 京都精華大学非常勤講師（平成26～30年，令和2年～）
- 同志社女子大学非常勤講師（令和2年～）

＜主な受賞歴等＞

- 文學界新人賞(「いやしい鳥」(文學界／平成18年)／平成18年)
- 芥川龍之介賞(「爪と目」(新潮／平成25年)／平成25年)
- 京都市文化芸術きらめき賞(平成25年)
- 京都府みやこの文化輝き賞(平成25年)
- 京都府あけぼの賞（平成25年）
- フラウ文芸大賞(『おはなしして子ちゃん』(講談社／平成25年)／平成26年)
- 京都府文化賞奨励賞（平成28年）

＜主な活動等＞

【著書等】

- 「いけにえ」（すばる／平成21年）で初めての芥川龍之介賞候補（平成21年）
- 『パトロネ』（集英社／平成24年）で野間文芸新人賞候補（平成24年）
- 「アイデンティティ」（群像／平成25年）で川端康成文学賞候補（平成26年）
- 『ぼくは』（フレーベル館／平成25年）で初めて絵本を出版
- 『ファイナルガール』（扶桑社／平成26年）
- 『［現代版］絵本　御伽草子　木幡狐』（講談社／平成27年）
- 『ドレス』（河出書房新社／平成29年）
- 『私は幽霊を見ない』（KADOKAWA／令和元年）
- 『ピエタとトランジ＜完全版＞』(講談社／令和2年)で織田作之助賞候補(令和2年)
- 『来世の記憶』(KADOKAWA／令和2年)

【その他の活動】

- 「ボーダレス・エリア近江八幡芸術祭　ちかくのたび」(寺本邸／滋賀／令和元年)
- 「六甲ミーツ・アート芸術散歩2020」(六甲高山植物園／兵庫／令和2年)

＜京都市との関わり＞

- シンポジウム「京都の文学賞創設に向けて～新たな作家を発掘！～」トークショー，パネルディスカッションに出演（立命館朱雀キャンパス／京都／平成30年）
- 「ALLNIGHT HAPS2018後期　信仰vol.3 谷澤紗和子×藤野可織」(HAPS／京都／平成31年)
- 京都文学賞アンバサダー(令和元年～)
- 京都文学レジデンシーアドバイザー(令和3年～)
- シンポジウム「文学レジデンシーとは何か」出演（京都芸術センター／令和3年）
- 京都市交響楽団×藤野可織 オーケストラストーリーコンサート「ねむらないひめたち」(ロームシアター京都／令和3年)

＜代表作等＞

『爪と目』（新潮社／平成25年）

京都市交響楽団×藤野可織
オーケストラストーリーコンサート
「ねむらないひめたち」（令和3年）

年齢は受賞日（令和4年1月21日）現在

（別紙1）京都市芸術振興賞

朧谷　寿　おぼろや　ひさし　（82歳）

学術（歴史）／京都市北区

【功績】

同志社大学文学部文化学科文化史学専攻を卒業。平安博物館助教授，同志社女子大学教授等を経て，現在，同志社女子大学名誉教授。

平安朝史，特に邸宅研究に精通した第一人者として，論考や日記，説話，絵画史料などの膨大な史料を紐解き，平安王朝・貴族の生活様式や人物像をいきいきと描き出した著書を多数出版している。

また，学習漫画の監修など一般向けの著書でも知られ，講演も数多く手掛けるなど，古典・王朝文化の普及・振興に寄与している。平成17年，京都府文化功労賞受賞。現在，源氏物語アカデミー監修者，古代学協会理事長，白拍子研究所所長などを務めている。

＜略歴＞

- 新潟県に生まれる（昭和14年）
- 同志社大学文学部文化学科文化史学専攻卒業（昭和37年）
- 平安博物館助教授
- 同志社女子大学教授（昭和60～平成21年）

＜主な受賞歴等＞

- 京都府文化功労賞（平成17年）

＜現在＞

- 源氏物語アカデミー監修者（平成4年～）
- 同志社女子大学名誉教授
- 紫式部顕彰会理事副会長
- 古代学協会理事長
- 国際京都学協会理事
- 白拍子研究所所長

＜主な活動等＞

【著書】

- 『清和源氏』（教育社歴史新書／昭和59年）
- 『源頼光』（吉川弘文館／平成元年）
- 『日本の歴史 ⑥王朝と貴族』（集英社／平成3年）
- 『藤原氏千年』（講談社／平成8年）
- 『源氏物語の風景』（吉川弘文館／平成11年）
- 『平安貴族と邸第』（吉川弘文館／平成12年）
- 『藤原道長—男は妻がらなり』（ミネルヴァ書房／平成19年）
- 『堀河天皇吟抄—院政期の雅と趣』（ミネルヴァ書房／平成26年）
- 『平安王朝の葬送—死・入棺・埋骨』(思文閣出版／平成28年)
- 『藤原彰子—天下第一の母』（ミネルヴァ書房／平成30年）

【監修】

- 『学習まんが 少年少女 人物日本の歴史 紫式部』（小学館／昭和59年）
- 『徹底大研究　日本の歴史人物シリーズ 藤原道長』（ポプラ社／平成15年）
- 『清少納言—『枕草子』をかいた女性随筆家』（ミネルヴァ書房／平成24年）
- 『貴族のくらし』（ポプラ社／平成27年）

＜京都市との関わり＞

- 古典の日推進委員会アドバイザー，古典の日文化基金賞選考委員会副委員長
- 京都創生百人委員会委員
- 京都市基本計画審議会委員（平成21～23年）
- 上京区基本計画策定委員会委員長（平成21～23年）
- 明日の京都 文化遺産プラットフォーム理事

＜代表作等＞

『平安王朝の葬送 死・入棺・埋骨』（思文閣出版／平成28年）

『藤原彰子 天下第一の母』（ミネルヴァ書房／平成30年）

年齢は受賞日（令和4年1月21日）現在

（別紙1）京都市芸術振興賞

白井　進　しらい　すずむ　（79歳）

書／京都府宇治市

【功績】

学生の頃から書を安達嶽南氏に師事。書道の研鑽と書道教育の進展を図るために設立された水明書道会に所属し，水明書展一般部，青少年部の審査会の運営のほか，月刊書道『水明』競書誌の編集長も務めながら，自身でも数多くの受賞を重ねるなど，書道文化の普及と発展に尽力し，平成19年から26年まで同会理事長，現在は会長を務める。

平成26年からは「書道を通じた相互の親睦と書芸文化向上の発展普及」を目的として結成された京都書道連盟の理事長に就任。京都の書道団体をまとめ，展覧会のほか，レクチャーやワークショップの開催，さらには書道文化に留まらず，京都の生活文化や伝統芸能をテーマとした講演会の主催などの活動を通じ，京都の文化芸術の振興に貢献している。

書家として活動するとともに龍村美術織物では染織の復元や調査研究にも携わり，令和2年まで同社顧問を務めた。

＜略歴＞

- 京都府に生まれる（昭和17年）
- 学生時代より安達嶽南氏に師事
- 株式会社龍村美術織物入社（昭和39~令和2年）
- 同社取締役に就任（平成3~19年）
- 同社顧問に就任（平成20~令和2年）
- 水明書展一般部審査会員（昭和54年~）
- 一般社団法人水明書道会理事長（平成19~26年）
- 毎日書道展審査会員（平成26年~）
- 創玄書道会一科審査会員（平成27年~）
- 第3回藝文協展審査員（平成29年）

＜現在＞

- 書道研究篁会会長（平成16年~）
- 京都書道連盟理事長（平成26年~）
- 一般社団法人水明書道会会長（平成27年~）
- 公益財団法人京都市芸術文化協会理事（平成29年~）

＜主な受賞歴等＞

- 「全関西現代書展」大賞（昭和43年），記念大賞（昭和54年）
- 「毎日書道展」秀作賞（昭和48，51，52年）
- 「水明書展」新人賞（昭和49年），奨励賞（昭和52年）
- 「創玄展」特選（昭和53，54年）
- 「京展」京都市芸術文化協会理事長賞（昭和63年）
- 「京展」市長賞（平成3年）
- 京都市芸術文化協会賞（平成29年）
- 京都市文化芸術有功賞(京都書道連盟として)(令和3年)
- 「フランス・ル・サロン展」入選（令和3年）
- 「日展」入選（令和3年）

＜主な活動等＞

- フランスリヨン書展（平成7，9年）
- 南フランス書展（平成8年）
- チェコ・プラハ書展（平成14年）
- 「毎日現代書関西代表作家展」（平成17年~）
- 台北書法展（平成20年）
- 「日本の書展」（平成22年~）
- 【個展】「祥を紡ぐ」（京都府立文化芸術会館／平成26年）
- 「モナコ・日本芸術祭」（令和元，2年）
- イタリア・ミラノ ジャパンアートコレクション（令和2年）
- 「中野越南の精神をうけた書家たち」（京都市京セラ美術館／令和3年）
- 「水明書展 第69回青少年部，第71回一般部展」（京都市京セラ美術館／令和3年）
- 「創設70周年記念京都書道連盟展」（京都市京セラ美術館／令和3年）

＜京都市との関わり＞

- 「南区子ども書道展」審査（平成25年~）
- ロームシアター京都オープニング事業／公益財団法人京都市芸術文化協会創立35周年記念事業「京の文化絵巻 I ～花鳥風月～」（ロームシアター京都／平成28年）
- 東アジア文化都市2017京都「中日韓書画交流展 美美与共」(譚国斌現代芸術博物館／中国／平成29年)
- 「文化芸術授業（ようこそアーティスト）」講師（平成30年~）

＜代表作等＞

「宮尾登美子の錦と
龍村平藏の美展」
図録題字（平成24年）

第8回日展作品（令和3年）

年齢は受賞日（令和4年1月21日）現在

（別紙1）京都市芸術振興賞

椿 昇 つばき のぼる （68歳）

現代美術／兵庫県西宮市

【功績】

昭和53年に京都市立芸術大学（京都芸大）大学院美術専攻科西洋画科修了。1980年代から国内外で活躍し，美術と社会の関係を問い直す刺激的な作品を発表し続けている。平成13年の横浜トリエンナーレで発表した巨大なバッタのバルーン「インセクト・ワールド－飛蝗」は，大きな話題を呼んだ。近年は，地域社会でのアートプロジェクトにも数多く参加している。平成22年京都府文化賞功労賞受賞。

長年にわたってアート教育に携わり，瓜生山学園京都芸術大学の卒展のアートフェア化や学内ギャラリー「ARTOTHÈQUE」の設立に取り組んだ。平成30年からはアーティスト自らが企画，運営，出品を手掛ける展覧会「ARTISTS’FAIR KYOTO」のディレクターを務めるなど，若手アーティストの育成にも尽力している。

＜略歴＞

・京都市に生まれる（昭和28年）
・京都市立芸術大学大学院美術専攻科西洋画科修了（昭和53年）
・松蔭女子学院中学校・高等学校美術教員（昭和53~平成14年）
・帝塚山学院大学助教授（平成14~平成17年）

＜現在＞

・瓜生山学園京都芸術大学教授（平成17年~）
・「ARTISTS’FAIR KYOTO」ディレクター（平成30年~）
・瓜生山学園京都芸術大学内ギャラリー「ARTOTHÈQUE」ディレクター（令和元年～）

＜主な受賞歴等＞

・京都府文化賞功労賞（平成22年）

＜主な活動等＞

・「アゲインスト・ネイチャー」（アメリカ，愛知／平成元年）
・「ヴェネチア・ビエンナーレ」（イタリア／平成5年）
・「横浜トリエンナーレ」（神奈川／平成13年）
・【個展】「国連少年」（水戸芸術館／茨城／平成15年）
・【個展】「椿昇 2004–2009: GOLD/WHITE/BLACK」（京都国立近代美術館／平成21年）
・「六本木アートナイト」（東京／平成23年）
・【個展】「PREHISTORIC_PH」（霧島アートの森／鹿児島／平成24年）
・瀬戸内国際芸術祭「小豆島 醤の郷＋坂手港プロジェクト」ディレクター（香川／平成25年）
・「種子島宇宙芸術祭」（鹿児島／平成29年）
・神戸開港150年記念「港都KOBE芸術祭」（兵庫／平成29年）
・「AOMORIトリエンナーレ」アーティスティックディレクター（平成30年）
・「ARTISTS’FAIR KYOTO」ディレクター（平成30年~）
・「3331ART FAIR」（3331 Arts Chiyoda／東京／平成31年）
・「『パレルゴン』1980年代，90年代の日本の美術」（Blum&Poe／アメリカ／令和元年）
・「神宮の杜芸術祝祭」（明治神宮ミュージアム／東京／令和2年）

＜京都市との関わり＞

・東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス（HAPS）実行委員会アドバイザー

＜代表作等＞

「Fresh Gasoline」（平成元年）

「インセクト・ワールドー飛蝗」（平成13年）

年齢は受賞日（令和4年1月21日）現在

（別紙1）京都市芸術振興賞

並木　誠士　　なみき　せいし　（66歳）

学術（美術史・美術館学）／京都市左京区

【功績】

昭和62年に京都大学大学院文学研究科修士課程修了。京都大学で吉岡健二郎氏，佐々木丞平氏に師事し，徳川美術館学芸員，京都造形芸術大学助教授を経て，長年にわたり京都工芸繊維大学で教鞭を執り，後進の育成に尽力。現在は同大学名誉教授であり，特定教授として美術工芸資料館館長を務める。

日本美術史や美術館学を専門とし，狩野派などを研究して，近代京都の美術工芸にかかわる。美術展企画に携わる一方，京都市内の14大学が参加する「京都・大学ミュージアム連携」の中心として，大学ミュージアムの国内外への発信に貢献。将来を担う人々の「教育」のため，という確固たる思いの下，所蔵品の展示公開に留まらない，新たな大学ミュージアムの活動に精力的に取り組み，可能性を模索し続けている。

＜略歴＞

- 東京都に生まれる（昭和30年）
- 財団法人徳川黎明会徳川美術館学芸課学芸員（昭和55～57年）
- 京都大学大学院文学研究科修士課程修了(昭和62年)，同大学博士課程中退(63年)
- 京都大学文学部助手（昭和62～63年）
- 京都造形芸術大学芸術学部助教授（平成6～7年）
- 京都工芸繊維大学助教授（平成7～14年）
- 京都工芸繊維大学教授（平成14～令和3年）
- 放送大学客員教授（平成16～20年）

＜現在＞

- 京都工芸繊維大学美術工芸資料館館長（平成20年～）
- 京都工芸繊維大学名誉教授（令和3年～）
- 京都工芸繊維大学特定教授（令和3年～）

＜主な受賞歴等＞

- グッドデザイン賞（堂本印象美術館）（平成30年）

※京都府立堂本印象美術館の改修プロジェクトの主要メンバーとして参画

- 意匠学会賞（令和2年）

＜主な活動等＞

- 平成23年に，文化庁の「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」に採択された「京都のミュージアム活性化プロジェクト」の一環として，京都市内の大学ミュージアム施設と「京都・大学ミュージアム連携」事業を設立。同事業の実行委員長を務め，各ミュージアムの収蔵資料や展覧会活動を通して，京都市の観光振興，地域活性化を進める。市内14大学にある15大学ミュージアム（現在は14大学の14大学ミュージアム）が連携し，京都の他に九州，東北，沖縄，台湾などでも合同展覧会を開催
- 平成25年に，美術工芸資料館において，「大学ミュージアム収蔵資料を活用したアートマネージャー育成プログラム―大学ミュージアムによる高度学芸員の育成―」を開始し，実践力のある学芸員志望学生を育成する活動を展開

【著書】

- 『美術館の可能性』（共著／学芸出版社／平成18年）
- 『絵画の変―日本美術の絢爛たる開花』（中央公論新社／平成21年）
- 『京都　伝統工芸の近代』(共編著／思文閣出版／平成24年)
- 『日本絵画の転換点　酒飯論絵巻　「絵巻」の時代から「風俗画」の時代へ』（昭和堂／平成29年）
- 『近代京都の美術工芸　－制作・流通・鑑賞』（編著／思文閣出版／平成31年）

＜京都市との関わり＞

- 「PARASOPHIA：京都国際現代芸術祭2015」にプロフェショナル・アドバイザリーボードとして参画（平成27年）
- シンポジウム「京都創生フォーラム」にパネリストとして出演（ロームシアター京都／平成30年）
- 文化庁京都移転ロゴマーク審査委員会委員（令和3年）

＜代表作等＞

『絵画の変―日本美術の絢爛たる開花』（中央公論新社／平成21年）

『近代京都の美術工芸－制作・流通・鑑賞』(編著／思文閣出版／平成31年)

年齢は受賞日（令和4年1月21日）現在

（別紙1）京都市芸術振興賞

福井　尚子　ふくい　ひさこ　（72歳）

洋楽（ピアノ）／京都市左京区

【功績】

京都市立堀川高校音楽科（現 京都堀川音楽高校）を経て，東京芸術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。リサイタルやオーケストラとの協奏曲の協演，アンサンブルなど，ピアニストとして多数の演奏会を行う。

京都女子大学，同志社女子大学の非常勤講師を務めたほか，京都堀川音楽高校では40年以上の長きにわたりピアノの指導を行い，日本国内に留まらず，国際的にも活躍する多くの後進の育成に尽力し，平成26年には京都市教育委員会教育実践功績表彰を受賞した。

また，全日本学生音楽コンクール，日本クラシックコンクール，京都ピアノコンクールといった数々のコンクールの審査員を務めるなど，音楽の普及啓蒙活動にも注力している。

＜略歴＞

・京都市上京区出身
・京都市立堀川高等学校音楽課程卒業(昭和43年)
・東京芸術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業(昭和47年)
・京都市立堀川高等学校(現：京都堀川音楽高等学校)非常勤講師(昭和50～平成27年)
・財団法人青山財団評議員(平成11～14年)
・財団法人青山財団理事(平成14～23年)
・公益財団法人青山音楽財団音楽事業推進委員(平成24～令和2年)
・京都女子大学非常勤講師(昭和49～61年)
・同志社女子大学学芸学部音楽科講師(平成28～令和元年)

＜現在＞

・日本演奏連盟会員
・日本ピアノ教育連盟会員

＜主な受賞歴等＞

・京都音楽協会稲畑登美賞(昭和43年)
・京都市教育委員会教育実践功績表彰(平成26年)

＜主な活動等＞

・「京都ピアノコンクール」審査員(昭和60～令和3年)
・「毎日新聞社主催全日本学生コンクール」大阪大会審査員(平成15～令和2年)
・「日本ピアノ教育連盟オーディション」審査員(平成15～令和3年)
・「日本クラシック音楽コンクール」審査員(令和元年ほか)
・「大阪国際コンクール」審査員(令和元年ほか)
・公益財団法人青山音楽財団青山音楽賞選考委員(平成11～13年)
・公益財団法人青山音楽財団青山音楽賞審査委員(平成14～令和4年)
・公益財団法人青山音楽財団青山音楽賞審査委員長(令和2年)

＜代表作等＞

全国コンクールの審査員を多数つとめる
（画像は日本クラシック音楽協会）

令和2年青山音楽賞審査委員長
（画像は令和元年の受賞者）

年齢は受賞日（令和4年1月21日）現在

（別紙1）京都市芸術振興賞

本城　ゆり　ほんじょう　ゆり　（101歳）

舞踊／京都市中京区

【功績】

昭和6年，11歳で兵庫県から単身上京。現代舞踊の草分けの一人として知られている石井小浪氏に師事し，国内外で公演活動を行う。昭和22年に独立。京都・大阪・神戸・柏原を拠点に「本城ゆり現代舞踊研究所」を主宰し，創作活動，後進育成に取り組みながら，昭和24年の設立時から全京都洋舞協議会の役員を務め，長年，洋舞界の発展，舞踊芸術の振興に多大の貢献を果たす。

ダンサーとしても活動を続け，昭和40年，初のリサイタルを開催，以降毎年公演を続け，平成22年には京都市・グアダラハラ市姉妹都市提携30周年及び日本・メキシコ交流記念事業などに出演。92歳の時に背骨圧迫骨折という大けがを負ったが，それを乗り越え，平成29年には96歳で舞台復帰。101歳を迎えた令和3年11月にも，「オータム・ダンス・フェスティバル in 京都」でロームシアター京都の舞台で舞った。戦前・戦中の大変困難な時代にあっても舞踊の普及に尽くした情熱を，現在でも全く失わず，日々研鑽に努めている。

<略歴>

・兵庫県に生まれる（大正9年）
・上京。石井小浪氏の門下に入る（昭和6年)
　石井小浪氏の内弟子として生活し，通学しながらレッスンに励む。国内・海外の公演，活動に参加
・独立し，関西(大阪・神戸・柏原)に活動拠点を移す（昭和22年）
・京都にレッスン場を開設（昭和24年）
・全京都洋舞協議会設立に関わり，同協会役員として活動（昭和24年）
・全京都洋舞協議会委員長就任（平成14年)
・全京都洋舞協議会顧問就任(平成16年）

<現在>

・本城ゆり現代舞踊研究所主宰

<主な受賞歴等>

・京都市芸術文化協会賞(昭和59年)

<主な活動等>

・関西各地のレッスン場で指導にあたり，随時作品を発表
・関西舞踊団を結成し活動開始（昭和39年）
・45歳で初のリサイタルを開催（昭和40年）
　以降も毎年合同バレエ祭やリサイタルなどで作品発表
・「アジアの音舞の現在　2017　如聲」(京都市立芸術大学（京都芸大）中村研究室主催)に招かれ，「ヴォカリーズ」上演（平成29年）
・「オータム・ダンス・フェスティバルin京都」に101歳で出演を果たす（ロームシアター京都／令和3年）

<京都市との関わり>

・「芸術祭典・京」にて振付を行う
　「能楽堂に舞う」のうち「蝶」（平成3年），「モダンバレエ三舞作　踊三舞」のうち「ナビ」（平成8年）
・京都市グアダラハラ市姉妹都市30周年，日本メキシコ交流400年記念事業 秋の合同バレエ祭にて卒寿記念公演「ヴォカリーズ」（平成22年）

<代表作等>

本城ゆりリサイタル「王女メディア」（昭和56年）

本城ゆり卒寿記念作品「ヴォカリーズ」（平成22年）

年齢は受賞日（令和4年1月21日）現在

（別紙1）京都市芸術振興賞

三好　芫山　みよし げんざん　（77歳）

邦楽（尺八）／京都市北区

【功績】

昭和31年に都山流・富井舜山師（富井清 元京都市長）に入門。昭和36年に准師範，昭和40年に師範となり芫山と名乗る。昭和46年に大師範となった後，昭和58年には尺八界最高の称号である「竹琳軒」を允許(いんきょ)される。

日本を代表する尺八奏者であり，50回を超えるリサイタルを開催したほか，文化使節としてアメリカ，トルコ，中国等を訪問，さらにドイツ・フランス・スペイン等にも招聘され演奏を行うなど，国内外を問わず広く活躍している。昭和56年にはジャズ・フュージョンバンド「ザ・ゲンザン」を結成，昭和63年にはシンセサイザーやハープ，読経との共演を収録した「真魚空海」を発表するなど，既存の枠組みに囚われず尺八の新たな可能性を追求する。

現在は邦楽アンサンブル「みやこ風韻」の団長としても活動するほか，尺八教室を開催し後進の育成にも努めている。

＜略歴＞

・京都府田辺町（現在の京田辺市）に生まれる(昭和19年)
・都山流・富井舜山師に入門(昭和31年)
・准師範となる。初代星田一山師に師事（昭和36年）
・師範となり芫山と名乗る（昭和40年）
・都山流技能指導員となる（昭和41年）
・大師範となる（昭和46年）
・尺八界最高の称号である「竹琳軒」を允許（いんきょ）される（昭和58年）
・奈良教育大学非常勤講師(平成10年)
・特定非営利活動法人日本尺八協会設立。初代理事長に就任(平成18年)

＜現在＞

・都山流尺八清芫社社主
・邦楽アンサンブル「みやこ風韻」団長

＜主な受賞歴等＞

・グリーン・リボン賞新人賞（昭和50年），演技賞（昭和63年）
・大阪府文化祭奨励賞(昭和55年)
・京都市芸術文化協会賞(昭和60年)
・龍谷奨励賞（平成4年）
・京都府文化賞功労賞(平成24年)
・龍谷特別賞（令和3年）

＜主な活動等＞

・第一回リサイタル開催（以降毎年）（昭和48～令和3年）
・国際交流基金により文化使節として渡米（昭和55年）以降，中国，モロッコ，トルコ，ポーランド等様々な国に派遣
・ジャズ・フュージョンバンド「ザ・ゲンザン」結成（昭和56年）
・CD，カセット「真魚空海」発売（RCAビクター／平成元年）
・CD「Future Echo」発売（アポロン／平成2年）
・シドニーオリンピック シンクロナイズドスイミング団体戦の音楽を担当（平成12年）
・「国際尺八フェスティバル」参加（アメリカ／平成19年，オーストラリア／平成20年）
・「ガラ・ショーキン・ジャズフェスティバル」出演（ロシア／平成22年）
・邦楽アンサンブル「みやこ風韻」を結成・公演開催(平成23年～現在)
・ハワイにて尺八指導を始める（平成29年）
・日本ハンガリー外交関係開設150周年記念「邦楽アンサンブルinブダペスト」（平成31年）
・新春スペシャルライブ（JZ Brat／東京／令和2年）

＜京都市との関わり＞

・京都市「冬の大文字」イベント出演（平成11年）
・二条城築城400年プレイベント出演（平成14年）

＜代表作等＞

CD「ゲンザンの響 PART3　三好芫山作品集」

第49回尺八リサイタル（平成21年）

年齢は受賞日（令和4年1月21日）現在

（別紙1）京都市芸術振興賞

村田　純一　むらた じゅんいち　（86歳）

芸術振興（文学）／京都市右京区

【功績】

村田機械株式会社代表取締役会長。慶應義塾大学，バブソン大学大学院を経て現在の村田機械の前身にあたる村田繊維機械に入社，昭和45年からは村田機械株式会社代表取締役社長を務めた。京都文化交流コンベンションビューロー理事長，京都文化力プロジェクト理事も兼任するなど，京都を産業面でも文化面でも牽引する存在である。

平成19年，「源氏物語千年紀委員会」設立に伴い会長に就任。翌年の平成20年には『源氏物語』の存在が記録上確認できる最も古い日付にちなんで，11月1日を「古典の日」と宣言し，平成24年の法制化に尽力した。平成21年から，古典の日推進委員会発足に伴い会長として「古典をいだき　古典に抱かれて」をキーワードに様々な文化事業を推進している。令和2年には「古典の日文化基金賞」の創設を主導した。

＜略歴＞

・京都市に生まれる（昭和10年）
・慶應義塾大学卒業（昭和33年）
・バブソン大学大学院(アメリカ)修了後，
　村田繊維機械株式会社入社（昭和35年）
・村田機械株式会社代表取締役社長（昭和45~平成15年）
・京都商工会議所会頭（平成13~19年）
・源氏物語千年紀委員会会長（平成19年）
・琳派400年記念祭委員会会長（平成26年）

＜主な受賞歴等＞

・関西元気文化圏賞（源氏物語千年紀委員会として／平成20年）
・関西元気文化圏賞（琳派400年記念祭委員会として／平成27年）
・京都創造者大賞(古典の日推進委員会として／令和元年)
・「古典の日」の普及啓発活動に対し，文化庁長官から感謝状を受ける（古典の日推進委員会として／令和2年）

＜現在＞

・村田機械株式会社代表取締役会長（平成15年~）
・京都商工会議所名誉会頭（平成19年~）
・古典の日推進委員会会長（平成21年~）
・公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー理事長（平成19年~）※平成23年~公益財団法人
・京都文化力プロジェクト実行委員会理事（平成28年~）

＜主な活動等＞

・公益財団法人村田海外留学奨学会を設立，これまで140名を超える留学生を派遣（昭和45年~）

＜京都市との関わり＞

・「源氏物語千年紀のよびかけ」を受け，京都府，京都市，宇治市，京都商工会議所等で「源氏物語千年紀委員会」の設立に伴い会長に就任（平成19年）
・「源氏物語千年紀記念式典」にて「古典の日」宣言を行う（平成20年）
・「古典の日推進委員会」発足に伴い会長に就任（平成21年）。古典の日普及事業として，「古典の日推進フォーラム」，「街かど古典カフェ」，「古典の日朗読コンテスト」等を実施し，平成22年に，千玄室氏（よびかけ人代表）の呼びかけの下，古典の日の法制化に向け署名活動を開始。平成24年「古典の日に関する法律」が公布及び施行
・古典の日推進委員会会長や公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー理事長として，「方丈記800年記念事業」（平成24年），「琳派400年記念祭委員会」（平成26~27年）に参画し，開催に尽力
・実践女子大学・実践女子大学短期大学部との連携協定を結び，相互の催事・イベント等への共催・協力、デジタルコンテンツを相互提供するなど，「古典の日に関する法律」の精神の実現に向けて取り組む（平成31年）
・「古典の日文化基金賞」の創設を主導（令和2年）

＜代表作等＞

「源氏物語千年紀記念式典」での「古典の日」宣言
（平成20年）

「古典の日フォーラム」での文化庁長官による感謝状授与
（令和2年）

年齢は受賞日（令和4年1月21日）現在

（別紙1）京都市芸術振興賞

一般財団法人　ニッシャ印刷文化振興財団
芸術振興(印刷文化)／京都市中京区

一般財団法人
ニッシャ印刷文化振興財団
Nissha Foundation for
Printing Culture and Technology

【功績】

平成21年に日本写真印刷株式会社(現NISSHA株式会社)名誉会長の故・鈴木正三氏の寄付によって設立された財団。「印刷文化・技術に関する資料の収集・保存及び公開，印刷文化・技術に関する研究会・講演の開催，あるいは関連する調査・研究に対する助成・支援などを通じて，印刷文化・技術の継承，振興及び向上発展に寄与すること」を目的に設立。

ニッシャ印刷歴史館の管理・運営，ウェブマガジン「AMeeT」の発行・運営，「PATinKyoto 京都版画トリエンナーレ」の主催，ワークショップの開催，多くの文化イベント等への助成などを行い，京都における印刷文化・技術の振興に大きく貢献している。

＜沿革＞

・ NISSHA株式会社創業者・鈴木直樹氏が印刷業を開始(昭和4年)
・日本写真印刷株式会社(現NISSHA株式会社)設立(昭和21年)
・一般財団法人ニッシャ印刷文化振興財団設立（創立者：鈴木正三氏，現理事長：鈴木順也氏）(平成21年)
・NISSHA本館1階にニッシャ印刷歴史館開設(平成21年)
・NISSHA本館が国・登録有形文化財の登録認定(平成23年)

＜主な活動等＞

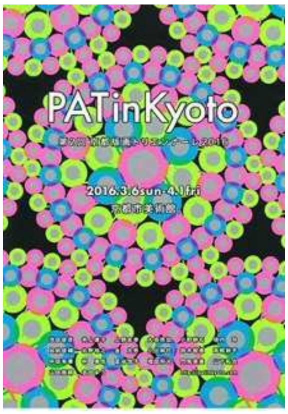
・NISSHA本館の管理・運営
　1階にニッシャ印刷歴史館を開設。国内外の印刷の歴史に関する貴重な書物や設備等を展示
・「Art Meets Technology」をコンセプトにウェブマガジン「AMeeT」を発行し，運営
　「テクノロジー」の側面からアートや文化財の世界を照射し，そこに立ち表れる創意や卓越，イノベーションについての情報を発信
・広く印刷文化・技術をテーマに一般を対象とワークショップを実施
・「京都国際学生映画祭」をはじめ多くの文化イベント等へ助成

＜京都市との関わり＞

・「PATinKyoto 京都版画トリエンナーレ」を京都市美術館他と共に主催(京都市美術館／平成25，28年)
　若手から中堅の作家たちの版画表現の豊かさを集約して紹介し, 京都から世界に向けて発信することを目的に開催。
　次回は令和４年に開催予定
・KYOTO STEAM ゴールドパートナー

＜代表作等＞

NISSA本館・ニッシャ印刷歴史館



「PATinKYOTO 京都版画トリエンナーレ」
(平成25，28年)

（別紙２）

京都市芸術新人賞・京都市芸術振興賞選考委員会委員

（敬称略）

氏　　名	職　　業　（役　　職）
赤松　玉女	京都市立芸術大学（京都芸大）学長
大嶋　義実	京都市立芸術大学（京都芸大）副学長，同音楽学部教授
熊倉　功夫	ＭＩＨＯ ＭＵＳＥＵＭ館長，国立民族学博物館名誉教授
潮江　宏三	京都市立芸術大学（京都芸大）名誉教授
篠原　資明	高松市美術館アートアドバイザー，京都大学名誉教授
田中　美鈴	元京都市立堀川音楽高等学校校長，前青山音楽財団理事長
中川　成美	立命館大学特任教授
原田　奈名子	大谷大学教授
藤田　隆則	京都市立芸術大学（京都芸大）日本伝統音楽研究センター教授
森西　真弓	大阪樟蔭女子大学名誉教授
吉田　良比呂	京都市副市長

（別紙３）

京都市芸術新人賞及び京都市芸術振興賞受賞者一覧（過去３年分）

表彰年度	芸術新人賞		芸術振興賞	
	氏　名	分　野	氏　名	分　野
令和2年	稲垣 路子（いながき みちこ）	洋楽	市田 ひろみ（いちだ）	服飾文化
	井上 舞（いのうえ まい）	日本画	梶谷 宣子（かじたに のぶこ）	染色
	木ノ下 裕一（きのした ゆういち）	演劇（監修・補綴）	喜志 哲雄（きし てつお）	学術（演劇評論）
	くるり	音楽	木代 喜司（きしろ よしじ）	彫刻
	contact Gonzo（こんたくと ごんぞ）	現代美術・パフォーマンス	白石 孝子（しらいし たかこ）	洋楽（フルート・指揮）
	谷澤 紗和子（たにざわ さわこ）	現代美術	林 美恵子（はやし みえこ）	邦楽（柳川三味線）
	柞磨 祥子（たるま しょうこ）	漆芸	山口 富藏（やまぐち とみぞう）	食文化
	中野 量太（なかの りょうた）	映画（監督）	公益財団法人稲盛財団（いなもりざいだん）	芸術振興（文化全般）
	福田 季生（ふくだ きはる）	日本画	関西美術院（かんさいびじゅついん）	芸術振興（美術）
	森見 登美彦（もりみ とみひこ）	文学（小説）		
	若木 くるみ（わかき）	版画・現代美術		
令和元年	石上 真由子（いしがみ まゆこ）	洋楽（ヴァイオリン）	石原 完二（いしはら かんじ）	洋舞
	今村 遼佑（いまむら りょうすけ）	現代美術	上村 雅之（うえむら まさゆき）	メディア芸術（ゲーム）
	入澤 あづさ（いりざわ）	漆芸	桂 勘（かつら かん）	舞踊
	宇髙 竜成（うだか たつしげ）	能楽	神林 恒道（かんばやし つねみち）	学術（美学）
	大森 静佳（おおもり しずか）	文学（短歌）	髙林 白牛口二（たかばやし こうじ）	能楽
	鬼頭 健吾（きとう けんご）	現代美術	鶴田 憲次（つるた けんじ）	洋画
	木野 智史（きの さとし）	陶芸	増井 信貴（ますい のぶたか）	洋楽（指揮）
	澤田 瞳子（さわだ とうこ）	文学（小説）		
	服部 しほり（はっとり）	日本画		
	蛭田 美保子（ひるた みほこ）	洋画		
	寄田 真見乃（よりた まみの）	邦楽（尺八）		
平成30年	石塚 源太（いしづか げんた）	漆芸	熊谷 寿美子（くまがい すみこ）	芸術振興
	上田 誠（うえだ まこと）	演劇	箱崎 睦昌（はこざき むつまさ）	日本画
	大江 信行（おおえ のぶゆき）	能楽	林 潤一（はやし じゅんいち）	日本画
	岡本 啓（おかもと けい）	詩	ミッシェル・ワッセルマン	芸術振興
	川田 知志（かわた さとし）	壁画	京都フランス歌曲協会（きょうと かきょくきょうかい）	音楽
	酒井 健治（さかい けんじ）	作曲	公益財団法人（こうえきざいだんほうじん） 中信美術奨励基金（ちゅうしんびじゅつしょうれいききん）	芸術振興
	茂山 忠三郎（しげやま ちゅうさぶろう）	狂言		
	トーチカ (ナガタ タケシ, モンノ カヅエ)	現代美術・映像		
	三木 啓樂（みき けいご）	漆芸		

（敬称略）